

版三十百

自然と人生

錢五廿價定

擔負社本稅郵

身を自然大化の浴槽に投じて、滿身の汚穢を一新せんと欲する者は、試みに本書を一讀せよ。自然を美化し、人生に悅樂を與ふる者未だ本書の如きは非ざる也。收むる所、小説灰燼、自然に對する五分時、寫生帖、湘南雜筆、風景畫家コロオ、五篇百餘章あり。文は何れも書の如く、讀み行くうちに卷中の人となり、恍惚として己を忘るゝの感あり、悉く是れ天才的佳什也。

發賣所

京城大平通一丁目
振替京城三〇〇番

京城日報社代理部

大岡越後傳吉

第四百十八席

浪桃川如燕
上義三郎速記

多田淡路守の一言を聞くよりそ生れ捕つて功名せよやと織田勢數多驅集まつて淡路守を生捕り、信長公の控へ給ふ極樂寺山の本陣へ引立て参りました、信長公御覽になるに赤裸裸に縛紐の繩を締め、面を舐る計りにあらず眼光輝くのを、人を驚かしりてございます、信長公此時に信汝は多田淡路守と名乗る由、なれども淡路守は甲斐二十四將の一人にして智勇勝れたる人物と聞及ぶ、然るに

す、凡を職陣に臨んで生命を鴻毛に輕しとするは匹夫の勇にして勇士の行ひにあらす、勇士はたゞ志なきを望り、或は灰を飲んで暗者とならば主人信臣の仇讐人を窺がひ、我親の宿願金杯は非人となつて干渉眞面目を刺す、其外和漢に例多し、我國に於ても縋絙の始めを受くるもの多し、大、曾我五郎を例のとして數ふるに違あらず、之皆初一念を貝かんだ



ふ子息が長後、の戦ひ、後相州小田原へ来たつて身を潜めて居りましたが、天正十八年豊臣秀吉が小田原を攻めて關八州を平定し、徳川康康公に改めて江戶城を下し給ふ、家康公江戶へ入府の節諸國より勤勞の者をお召しに上りました、多田三八も父光隆の寄來名代の人物でございます、徳川家では甲州武士を大附お用ひになられました、鹿野権右衛門、原隼人正を初めとして名代の人達をお召出

つて御幸公にたす事になりました。
多田三ノ木も召出しました。
朗ち雄本の如に加へられ八百石を預
戴いたします。此三人は軍學兵法に達し
ました人物で甲州流の極意といふも
のを得得て居る、代々職學者でござ
います。六代目の當主を多田三左衛門
門、長男は三十郎、二男は新之助、
娘をお雪といひ、お父上の三左衛門
殿は隠居して三十郎殿が家督相繼を
いたして居ります、文が二男の新之
助、年若ではあるが、又武術道に達し
末頼母らしい人物、兩利の息子とごさ
いましたが二十歳の時朋友に誘はれ
て吉原へ遊びに往つた、どうも若い
者が筆轡を通つても宜くないといふよ
位ゐ、プツと吹いて來る廓の風と
いふ奴に當ると言まで落けてしまひま
す、多田新之助、晩遊んだのが病
付きですツカマリ人間が變つて遊樂者
になつてしまひ人間が

▲廣 告▼

流經新藥シスノリン

五月月内
内に効果見
に現は其流經作用の確實を
優越す一劑用紙一版壹圓送費料込郵手封入申込迄是
大友市北區富根を子所寄

其方只今相成つて君恩を忘れ忽ち
に降人に出でて虜を敵中に晒すこと
勇士の道にあらず、恐らくは汝心底
より降人に出でしには非らずして信
長に近付き隙を見て我一命を斷ん存
念であらうぞや」淡路守此時ニ
ツクリ打笑つて「如何にも仰せの
如く大將に近付き一刀刀恨まんの心
底、素より武田譜代の家臣に候へば
他家に任へて餘命を負はん存念は更
にこれなれ候なり」信長公「信然ら
ば何故あつて名乗を上げ慕う我に
近付いて勝負を望まね、甲冑を脱捨
て見苦しき有様となつて繩に掛り生
て辱めを受け死して虜を焚す、勇士
にあるまじき卑怯の致方である、此
儀はどうぞや」淡路守カラ／＼と打
笑つて「淡くは、大將の一言とも覺え
に生前死後の悔を顧みざる勇士の
存、某も一度大將に近付き隙を見
一太刀恨み奉らんぞ存じ斯く腐つ
降人に罷出でたれども、己に大將
初めとして數多の人々に従られた
りて軍中に力及ばず、只速かに我首
つと、口を結んで覺悟の體、信長
公に給ひ、信聞して勝る勇士、斯
の者を首討つたりとて何かはせん
改めて召出すべきの用心を改め、
信長に奉公いたせ」淡路守カラ／
と打笑つて「淡、此期に及んで命を
亡渡路守と思召さるるか、他家は
らち甲州武士に於ては二君に仕へ
者は一人もない、速やかに我首を
更に動かさ、信長公大に感じ、信

胃腸最良新藥

敬日本 三十三國專賣特許

手ゲスチン



胃腸疾患、食慾不振、貧血後の恢復期、經血補給の目的に於て、の疾血小兒の體養、常用すれば血液不足に精力を盛んにす。

說明書見当
東京本町 食食 間城南座
發行所 戸宮三三三
替大阪二八三三

は人む悩に一リテスヒ湯疝神と道の血病宮子

彼れ是ミ
迷ミ無ク
難ク種久ク鬱塞神經
腸を、試ス現ニ百
方手を盡モ効ナ
キ難症の血の毒や、
多年不治のヒ
ステリーや數年
難治の子宮病の
方々が神經痛の起
で漸次快癒シ嬉
の餘リ惡病を遺
狀（現在保存す一般
の閱覧に供す）を添
らるゝ實例も説から
テ若不幸にも是等の

Illustration of a bottle of 'Jintan' (Jintan) and a person holding a sign. The bottle is labeled 'Jintan' and 'Jintan'. The person is holding a sign that says 'Jintan'.

[illegible]

ライオン 齒磨 大袋貳個お買求の
 觀覽券一枚宛を進呈致します。

○ライオン齒磨は凡ゆる御家庭に是非なくてはならぬ必需品であります

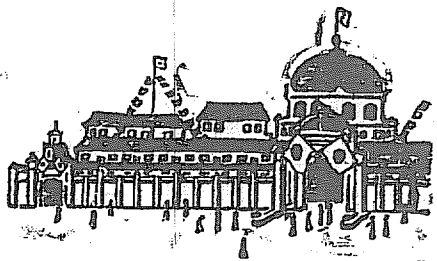
○共進會は是非一度御覧になる事が御利益であります

▲ライオン齒磨は御齒磨を登録し
▲其れに共進會獎勵券壹枚宛を添へ
▲平生の齒磨で賣出しました
▲何處にも賣つて居ります

▲此入賞券は共進會開期中有効ですが
▲親類券附の款に限りありますから
▲急にお買附になりなさい
▲直ぐ賣切れて終ひます

観覧券の無料提供
 大共進會と
 朝鮮物産
 始政五年記念
 くわんらんけん
 の
 むれうていきやう
 たい
 きやうしんかい
 ちょうせんぶつさん

ライオン齒磨本舗は愛用者優待の目的を以て



米期

御金註文は紹介を要せず
 到室之費無付進呈
 八限堂島米販取引所仲買人
 電話長東
 正橋本猪作
 五五五
 七七一

清酒

醇良

金露

灘魚界崎吟釀

大塚和三郎商店

模範 純粋
牛乳
暗燈豆乳
太正塚肥醫獸主場
四町第逢城京
場牧亞東
(昔二五陸電)



主 列

● 忌疫豫防
● 中暑中寒
● 中水下痢
● 食慾進不
● 消化不良
● 頭痛目眩

避暑地は悉く

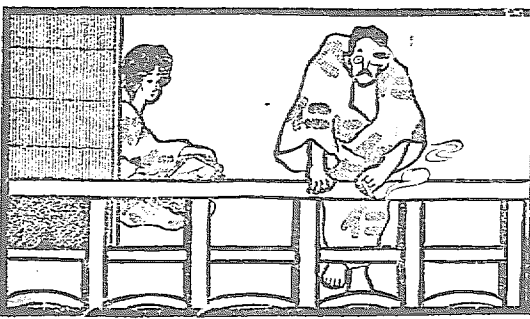
仁丹黨の天下！

潮しほを浴あびるにも山やまに行くいくにも

仁丹ジンタンの御用意ごよういさへあれば

イツモ愉快で元氣旺盛です!!!

金己カニを盡ツクし人ヒトを咎とが
言イハめず（西郷隆盛）



交通便なる美山は、却て衰退の氣ありしが、今同美山州の有志、奮然と奮起、美山を復興せんことを期す。美山は、昔より、交通便なる處なりしが、却て衰退の氣ありしが、今同美山州の有志、奮然と奮起、美山を復興せんことを期す。

口總督夫人の共進會場巡覽

共進會場を巡る九日の午後、三時、皇太子妃殿下は、共進會場を巡覽せられた。皇太子妃殿下は、共進會場を巡覽せられた。皇太子妃殿下は、共進會場を巡覽せられた。



明日こそ其日?

共進會が再開される

九月十一日、その日は、朝、雨に降つた。共進會場は、雨に降つた。共進會場は、雨に降つた。共進會場は、雨に降つた。

市中の賑

盛なる前夜

共進會の前夜、市中は賑わひに満ちた。共進會の前夜、市中は賑わひに満ちた。共進會の前夜、市中は賑わひに満ちた。

大腕に山盛の飯を召上る

李王世子殿下の快活な御生活

李王世子殿下は、快活な御生活を召上る。李王世子殿下は、快活な御生活を召上る。李王世子殿下は、快活な御生活を召上る。

石炭船の沈没

八日深夜、石炭船が沈没した

八日深夜、石炭船が沈没した。八日深夜、石炭船が沈没した。八日深夜、石炭船が沈没した。

二百噸の興化門

共進會場の新門

共進會場の新門、二百噸の興化門が完成した。共進會場の新門、二百噸の興化門が完成した。共進會場の新門、二百噸の興化門が完成した。

内金剛

談長局木土地

内金剛、談長局木土地。内金剛、談長局木土地。内金剛、談長局木土地。

共進會の労働者

共進會の労働者、共進會の労働者

共進會の労働者、共進會の労働者。共進會の労働者、共進會の労働者。共進會の労働者、共進會の労働者。

南大門入場料値上

共進會の入場料値上

共進會の入場料値上。共進會の入場料値上。共進會の入場料値上。

女を誘拐する悪漢

共進會場での誘拐事件

共進會場での誘拐事件。共進會場での誘拐事件。共進會場での誘拐事件。

共進會の労働者

共進會の労働者、共進會の労働者

共進會の労働者、共進會の労働者。共進會の労働者、共進會の労働者。共進會の労働者、共進會の労働者。

商業登記公告

商業登記公告

商業登記公告。商業登記公告。商業登記公告。

京成地方方法院

京成地方方法院

京成地方方法院。京成地方方法院。京成地方方法院。

仁川協賛會

仁川協賛會

仁川協賛會。仁川協賛會。仁川協賛會。

丸山ピチン丸

治癒薬

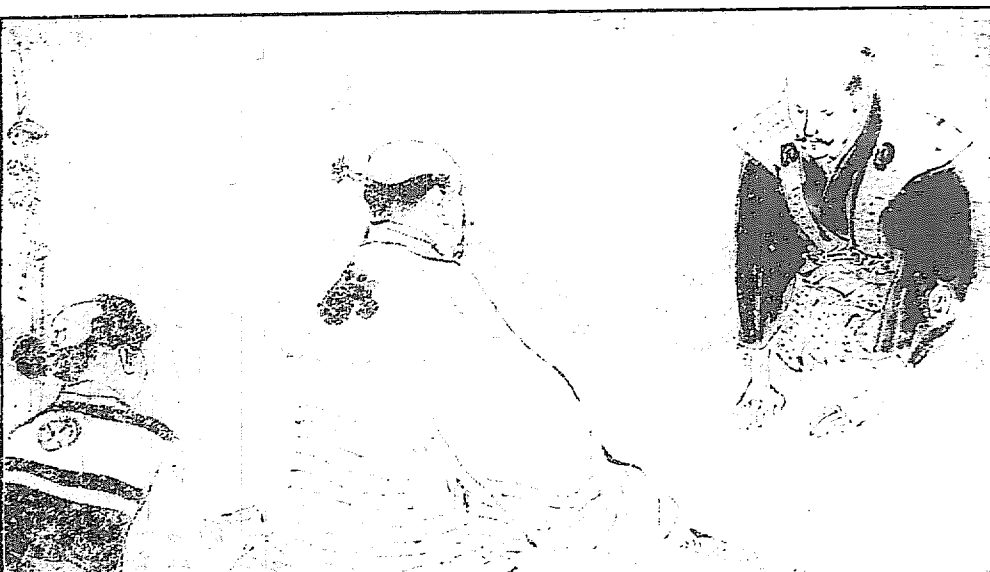
仁川協賛會

番衆浪人
尚井年餘齒

木下半左衛門は落着いた態度で、『「此處を能う聞かせ！ 御父君は三七殿を推して織田の主イヤ、天下の主とされうとある。以前なれば下の主とされうと申す御方ゑあるに、これ取りも直さず叛逆御坐なせや！』』

「は、それは……」


此際にはまづ、筑前殿手につかせられ三法師君を擁戴なし、旗の出でたる時は、其旗色を窺ひもし、御父君、敗れを取らせたる其時は、功によつ



「疾う會はう、通せ……！」
「ハツ、直ぐと導かれたのは木下平左衛門である。」
「長使番者は御かか、我等は筑前に御坐るぢや！」と安和やかに發釋する。

▲海外九月號　北滿南支那と云ふべく、南北支那南非滿洲の方面に亘りて、石炭先産地一定は、都十三四、東京市麹町五の一（海外社）

▲健全九月號　一部十二、東京市牛久木區東大塚新田健全社

近頃は電氣が暗くなつて居る様な感じがする。

淋病
高橋光時商店
振替貯金口盛大阪二〇六九

壹升に付拾五錢安し其遺

| | | | | | |
|-----------|-----|--------|--------|------|------|
| 大國元道修司三丁口 | 樂局出 | 白球入 | 六拾球入 | 三十球入 | 審量直段 |
| 五元 | 五百球 | 壹圓八拾五錢 | 壹圓貳拾五錢 | 六十錢 | |
| 十元 | 千球入 | 五錢 | | | |

價を試せ (電二九)

| | | | | |
|------------------------------|------------------------------|------------------------------|------------------------------|---|
| <p>威平丸 九月十六日 元山發</p> | <p>羅氏丸 九月十五日 釜山發</p> | <p>羅氏丸 九月十五日 釜山發</p> | <p>羅氏丸 九月十五日 釜山發</p> | <p>本庄 魚肝油 丸 九月十五日 釜山發</p> |
|------------------------------|------------------------------|------------------------------|------------------------------|---|

大阪商船出帆

門司、宇品、神戸、大阪行
三季平九 九月 日發六時出帆
三季平九 九月廿一日發九時出帆
三季平九 九月廿二日發九時出帆
三季平九 九月廿三日發九時出帆
三季平九 九月廿四日發九時出帆
三季平九 九月廿五日發九時出帆
三季平九 九月廿六日發九時出帆
三季平九 九月廿七日發九時出帆
三季平九 九月廿八日發九時出帆
三季平九 九月廿九日發九時出帆
三季平九 九月三十日發九時出帆

大谷平馬から委細の事を聞いて、會心の笑を洩しながら、やがて姫路を立つて、山崎寶寺の城に入つて間もなく。

「殿！長濱よりの使者に御上いまする。」と取次が手を支へた。

「來ていふ事はない」と答へて。

▲「新社會(二)」 県産の花の文壇文壇(一) 荻五郎東京市豊島区同町二の六八番文壇

▲「科舉思想」 科舉に於ける哲學的思想と漢學思想の初めと終末と 藤村 文壇文壇

▲「文學」 文學と衛生 天宮 文壇文壇

▲「社會」 社會多事(一) 一部全廿七東京市本郷區馬場二丁目其社

▲「家庭世界」 家庭世界(九) 藤村 文壇文壇

寫真銅版 亞鉛凸版
速成而堅固 耐久不壞
京成日報社 寫真製版部



長門の澤之鶴
自味を

鶴之澤 於
萬國

石譽賞
受領


津・磯崎石會聯合會

佐藤牧商店

[illegible]

| | | |
|----|-----------|-------------|
| 神丸 | 元山、清津、浦鹽行 | 九月十六日午後十時出帆 |
| 神丸 | 神丸、九月 | 日午後五時出帆 |
| 神丸 | 神丸、大阪行 | 日午後五時出帆 |
| 神丸 | 元山、清津、浦鹽行 | 九月十四日午後五時出帆 |
| 神丸 | 神丸、九月 | 九月十四日午後五時出帆 |
| 神丸 | 神丸、大阪行 | 九月十四日午後五時出帆 |

「御身が年寄の忠臣は、本馬よりか
よう承知の致し居るも、何はさて
陰謀と修理理。咄、まつたお市郎
や女将、その間に様々の儀のある事
も、灰かきに水つて心痛の致し居る
我等より修理理には何の如きも無
い。悉皆三法師様の御爲め、取りも
直さず縁田家御爲を思ふからずや
と云はれ無。」


 病者の 困つて居ります。是
 救済 少しく早く聞くと、

助けてくだされば、眞金もなくて
 居ります。△島田小僧 △共進會
 閉會中内地より京城に來る勝郎に何
 等證明のれなく共官線、なれば汽車會
 は二部引になつてしようか（見物誘
 引者の一人）△旭町四丁目の大きな
 建築物は寄居つて活動寫眞會、常設
 建築物△（近隣の男）△南大通りの
 市區改正は毎日上事が進んで清潔に
 なつて行くは結構な事だが一寸勘問

優良石鹼


今や外諸家、電氣二條より、
 二兩博工ノ創見ニ係り、
 五種ノ石鹼、テ合理的ニ集成セラレ
 洗及家造業ニ對シ、
 治癒ノ日

△說明書即申送次第部

強ナル治癒力ヲ有スルテ、タル強ナル殺菌力ヲ有スルテ、タル達シ得ル最も卓著セルヲ至ス。各地有る藥店ニアリ。品用ノ節

[illegible][illegible][illegible]

吉の態度に、ころりと參つて了つたので……




羅南短歌會詠草 わすれ草
 之よよよ秋の風吹く野の末の停車場に來て汽車をまつまを
 ひさりてあるにしくなしかして
 を寂しきかなと秋ふけぬば
 あをやかに夕べ燈臺に灯のつけば孝
 ひには母國の母をと思ふ
 父をおもひ母をこひつ朝鮮の秋實
 の野にたぐつめる我れ

あらあら月が橘うす波をうも窓にあ
 かあわが顔うす
 空に雲たし今宵の月にくもりなしわ
 が胸に昔なし歌うたはむ
 それ見よふたりのさまを指さしぬ
 咽はれん目に涙あらずな

羅南てふ山のなかななるもさきまも草
 しづえ子

る殊に南人門通り二丁目、の代書人の
間にある共同便所の不潔はいややや
甚敷いものである。試に朝の六時頃通
つて見給へ。聲持もならないよ。共進
會と云ふ内地人の澤山なる、益大なる
會が控へて居るではないか。交通頻
な南大門通りにある共同便所故今少
し立派に修繕するか取除けるかにせ
ないや。内地人に京城市の衛生は未だ
充分行納いて居ぬと笑はるてはない
か。清好遊△私しや豆腐屋ですが未
だ新米だから好く賣れぬ古参の人々は
御得意に一寸廻つて一圓五十錢二圓俵
は何の苦も無く賣つて来る所が幸い
と是からが辛抱だと露出して居るで
す。傳吉△世の中で眼の靈やうな名
伯な醜貨に郵便屋さんや汽船屋さん
と新聞屋さんやう時計とねらひま



十歳以下の小児の服病
 には特に研光配劑せる
 小児用大學目藥を
 御用ゐられ
 御用ゐられ

輪廓が正しく目

顔が豊満と活

自

各

粉こなでお化粧けしやうす
 東

花々として
 元えると

化粧けしやうの
 揮かする

生 座 金 初 陽 紅

薬店にかり定價十銭

[illegible]

| | | | | | | | |
|--|--|--|--|--|--|--|--|
| <p>上海基隆 打狗行 (大連出帆) 九月十三日 午前十時 出帆</p> | <p>宮島丸 九月十七日 午後九時 出帆</p> | <p>成津丸 九月廿一日 午後九時 出帆</p> | <p>山崎丸 九月廿三日 午前十時 出帆</p> | <p>山崎丸 九月廿五日 午前十時 出帆</p> | <p>山崎丸 九月廿七日 午前十時 出帆</p> | <p>山崎丸 九月廿九日 午前十時 出帆</p> | <p>山崎丸 九月卅一日 午前十時 出帆</p> |
|--|--|--|--|--|--|--|--|

「まづ、御心を静めさせい。されば御父君や、遊川殿の姫は、其名目が正しう御坐らぬ。筑前殿の姫には、正しい名が御坐る。まだ其上に、御父上を煩う、あの玄蕃殿が……」

「玄蕃……」玄蕃の名を聞くと、勝の眉はヒリ、と動いた。其附親にも快からざる勝堂は、盛政とは、殊に不快の仲々のであるから……

「あの、玄蕃殿が大膽に向ふ見すの曲けして、事を誤まる。所詮は彼の仁、功を急いで、已れが非望を満たさんため、すなはち、近く御姫あらうも、御父君は名も正しからず、地の利も無く、敗れを取らるゝは必

一命乞のせらるゝか、それども一これ成らずとするも、殿は正し柴田の御主と御方とある態にて勝の御家督を筑前何とぞされ申すい。」

「如何様……」半左衛門の言に、勝の心は稍慰いて來た。

「柴田の家名を絶やされは、殿が筑前殿に御味方の外は御坐るまい其處もある……」と勝堂は堅断した。こゝまで運べば、もう長濱は吉の物、近く來るべき勝友蘇の其局に一万ならぬ大影響を來すのである。

主従は、尙も、密かに時を移し、

た あ 戦 秀 い り 今 時 け ま 出

乙女てふ名にまねられてつゝ、まししく
つづはありなからこの十七 花柳段様

なり永かぬと淡き若さのいのちのもの
望ましきみにいのちられもすれ

新刊と批評(批評) 新刊と批評(批評)

理化学工芸の研究(二説) 一部岩倉
東京勸業興業平和司の一五日本理化学工
研究會

家延経訓讀義録卷之七 蘭学洋學朝語
留保不誤大正二年曲に關する材料
に就いての爲め編み成り(株式會社東京製
書館發行)

流行九月一 日本米穀船主の機關編輯
品販店十五番東京日本橋通丁三十三番水戸

流行世界(二) 第七あゆむ方面にわた
る流行世界の探偵めくり(一部新聞社)
品販店十六番東京日本橋區淺草町一九九

地下探検(二) 小さな可愛らしい爆薬
平瀬紀一 非貴品東京日本橋區浅草町一九九番

地の 赤れ 屋を 蒸る 國は

古岡中目

が我慢し玉へ来に耐ふるの梅は春香

しと云ふからね 同席者

貴御料おごりょうの
貴婦きふ△時々刻々に品

人間の質の改善されつゝあるレー

ト化粧料一切

です

く長く
して少
く化せ

歯は

三第

阿波國共同汽船株式會社
 九月十一日 前八時出帆
 本町一丁目電話二〇八〇番
 仁川代理店 山下 回漕部
 青島代理店 田口 回漕部
 元山代理店 山口 回漕部
 支店 電話二六八二番
 京都支店 河村運送店
